

平成26年度 東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞表彰者一覧

被贈呈者数:40名(男性:34名、女性6名)、平均年齢: 60.3歳 (最年長86歳、最年少36歳)

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
手かじ工	清水 孝継 正太郎刃物製作所	しみず たかつぐ	男	76	全国でも数少ない鉄の「総手打造り」に六十年にわたり従事し、その技術は一流テーラーや縫製工場から高い評価を受けているだけでなく、時にオーダーメイド品の依頼に応えられるほどの卓越した技能を有している。また、服飾学校の生徒や手芸用品専門店へ鉄についての指導助言を行うなど、服飾業界の発展にも寄与している。さらに、小学生の工場見学及び講演の実施、イベントでの実演など後進の指導・育成にも尽力している。
旋盤工	馬場 広明 株式会社 日立製作所 中央研究所	ばば ひろあき	男	52	半導体検査・製造装置、医療・バイオ関連装置を始めとする機械機構装置部品の旋盤加工に関する技能に優れ、電子顕微鏡装置、マイクロサンプリング装置、エッチャ装置など幾多の試作装置の試作を担当したほか、数々の考案・工夫・改善を行い、開発効率の向上、安全確保に寄与した。また、大学での講師及び技能五輪出場者の社内指導など、後進の指導・育成にも尽力している。
フライス盤工	月井 廣士 月井精密株式会社	つきい ひろし	男	86	フライス盤による高精度金属切削加工技能に優れ、国立天文台が設置した大型天体望遠鏡の高精度位置決め部品ユニットの作成を行うなど、我が国の天体追尾技術向上に貢献している。また、自ら最適な刃物を製作し超高精度切削を可能とすると共に、後進技能者の指導・育成にも貢献している。技能検定実施初期に一級技能士の資格を取得した、フライス盤超高精度切削技能における第一人者である。
金属特殊加工機工	平船 淳 株式会社 インパクト	たいらぶね あつし	男	59	ミクロン単位の超微細加工の技能だけでなく、その量産を可能にするノウハウやアイデアも持ち合わせるほか、その量産加工機も自身で設計・開発・製造しており、電子産業界に大きく貢献している。今日では、半導体検査装置や医療機器、理化学実験等の分野にも超微細加工の技能が生かされており、それを技術化して次世代に技能を繋いでいる。また、高校での講演や中学生の受け入れなど、後進の育成にも尽力している。
研削盤工	小村 祐二 日野自動車株式会社	こむら ゆうじ	男	44	切削工具研削作業に長年従事し、手作業による高精度の再研削作業に卓越している。豊富な知識と経験を活かし、切削工具再研削の入在庫状況データ管理システムの構築や大臣表彰を受賞する数多くの考案、改善などを行い、生産性向上やコスト削減に多大な貢献を果たした。また、社内技能等級認定制度の教本作成や関連企業への技術指導など、後進の指導・育成にも精力的に取り組んでいる。
金属プレス金型工	藤倉 達行 株式会社 西村製作所	ふじくら たつゆき	男	48	精密プレス金型の製造に長年従事し、従来のプレス技術では加工が出来ないとされていた複合素材を特殊なプレス加工技術で加工する技能を有している。特に、マイクロメスの刃体製造工程においては、定長切断やワイヤーカット、粗取り研磨や中研磨といった工程をアイデアに富んだ高精度・低コスト工法及びプレス技術で短縮し、リードタイムを大幅に削減した。これはプレス加工の更なる応用の効く新工法として、特許を取得している。
配電盤・制御盤組立・調整工	阿波 弘和 株式会社東芝 府中事業所	あわ ひろかず	男	43	電力流通関連の系統保護制御盤から公共関連の官需・施設・電鉄の制御装置まで幅広い知識と技能を有している極めて貴重な人材である。多機種に渡る監視制御装置及びその構成ユニットの製造経験に裏付けされたノウハウは、製品開発から標準化に活かされており、その斬新な提案は業務改善に大いに寄与している。また、技能検定委員及び職業訓練校講師を務めるなど後進育成に貢献している。
電気配線工事作業	大久保 和郎 株式会社 関電工	おおくぼ かずお	男	43	年々複雑化する自家用電気工作物の心臓部であり、情報化社会の中で高い信頼性が要求されている受変電設備の工事に長年従事してきたエキスパートである。第25回電気工事士技能競技大会に優勝し、第44次南極観測隊での昭和基地電気配線工事作業に携わるなど比類なき技能を有している。またその経験に基づき、社内講師などを歴任することで、業界発展や後進の育成にも貢献している。
友禪染工	坂原 栄 遊幻彩色	さかはら さかえ	男	71	友禪染の製作に長年従事し、優れた技能を有している。分業製作が一般的な中で、全工程を一人で担う数少ない工芸士の一人である。日本古来の技術を活かしつつも、友禪に蠟(ろう)けつ染めを加える、地染を重ねるなどの技法によって独創的なものを作り出し、多くの顧客に高い評価を受けている。また、小学生の友禪体験会や区の伝統工芸展での実演など、後進の育成にも尽力している。
寝具仕立工	梅田 雅弘 梅田製綿寝具 有限会社	うめだ まさひろ	男	59	一年を通して使用する寝具のなかでも身体に直接当たる敷き蒲団製造において、最も重要な工程である綿入作業に秀でた技能を有している。綿花と化繊の混合率によって綿の配分を変えて製作する等、常に技能の改良に取り組んでいる。また、研修会や講演会で積極的に講師を行い、自分の持っている技術・技能を惜しむことなく後進の技能士に指導している。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
婦人・子供服 注文仕立職	志賀 明子 アトリエ布美	しが あきこ	女	72	古布を利用した数多くの作品を手掛け、素材の持ち味を生かした立体裁断ができる優れた技能を有している。厚地の布を使いフレアー仕立てを試みたり、肩パットを利用して帽子を制作するなど斬新なアイデアによりコンクールでも上位入賞を果たしている。また、全技連マイスターの認定を受けており、各種イベント及び区主催講習会の講師として積極的に参加して後進の育成に尽力している。
婦人・子供服 注文仕立職	日比 和子 K.HIBI 立体裁断STUDIO	ひび かずこ	女	72	立体裁断技法を取り入れ、デザイン性と機能性に富んだ作品製作に優れている。この技法を駆使し、全国大会での上位入賞に留まらず、マスター・テーラーのアジア大会で優勝し、世界大会にも出品するなど日本の技術の評価を高めている。また、各種イベントでの実演及び母校での卒業生サークルの講師など、手作り・ものづくりの楽しさを伝えることで、後進の育成にも尽力している。
和服仕立・ 修理職	田中 順子 田中和裁	たなか じゅんこ	女	53	和服縫製全般における、豊富な経験と技能を有しており、仕立て前の裁ち方や、自ら子ども物のデザイン(三歳用祝着・七歳用打掛等)を考案、芸妓の着用する引着の製作等各技術における創意工夫は業界の中でも一目置かれている。また、各種イベントや専門学校での非常勤講師及び技能検定委員を務めるなど、後進の育成にも尽力しており、多数の技能士を輩出している。
和服仕立職	山田 操 山田和裁	やまだ みさお	女	73	和裁全般に渡り高度な技術を有し、特に紗の縫込み落としに関して他の和裁師が持たない希少で卓越した技術を持ち合わせている。また、袴の腰板の下や裾に渋紙を入れて張りを持たせる技法を開発し、布の象嵌(ぞうがん)・切り嵌(はめ)に関しても、土台の布と嵌め込む布のバランスの素晴らしさは、他の和裁師も絶賛するほどである。また、指導力にも長けており、講習会の講師や和裁技能コンクール入賞者及び多数の各種検定合格者を輩出し、後継者の指導・育成にも尽力している。
タイル張工	島村 新 有限会社 シマムラ企工	しまむら あらた	男	47	タイル張りの伝統的な技法である積上げ張り工法のほか、れんが・ブロック・左官・外構工事等の技能を有し、幅広い職能を発揮する技能工である。現在主流となっている弾性接着剤張り工法をいち早く採り入れ、現場に応じた施工法を研究し、安全安心で事故のない適正施工を実現している。また、職業訓練校非常勤講師や協会タイル教室の講師を務めるなど後進の育成に努め、タイル産業の発展に貢献している。
配管工	田中 匡穂 日立設備工業 株式会社	たなか まさほ	男	68	給水設備及び排水設備、空気調和設備の施工に関する技能に優れている。現場では「美しく見せる配管」を合言葉に創意工夫を行うとともに、節水型の衛生設備工事を積極的に推進し技能及び作業効率の向上に大きく寄与した。その高い知識と技能を買われ、コンクリート劣化実験における特殊配管装置の開発担当者として参加し、新製品の開発に大きく貢献した。また、専修学校・認定訓練校での講師及び区の設備向上会議講師など後進の育成にも尽力している。
造園工	佐藤 博 佐藤造園	さとう ひろし	男	64	造園業全般に亘って該博な知識と高度な技術技能を有している。特に、三葉(みつば)透かし・亀甲(きっこう)透かし等の江戸の伝統透かし剪定技法及び竹垣の工法に卓越しており、その技術は業界屈指である。その優れた技能と高度な知識により、園芸高校の講師や他県の技能講習会講師、中央検定委員を務めるなど、伝統技法の継承や後進の指導育成に尽力し、造園業の発展に大きく寄与している。
ガラス成形工	加藤 有一 イサミ硬質硝子 株式会社	かとう ゆういち	男	53	近年でも機械製造が出来ない理化学用大型ガラス器(デンシケータ、ろ過壺(ビン)、標本壺等)の、宙吹によるハンドメイド成形を担っている数少ない職人である。特に大型の理化学医療用硝子器製作において他の追随を許さない。この大型ガラス製品を成形する技能を工芸用のガラス製品に応用し、花瓶・照明器具、ガラス装飾品等を製造している。特に、約100cmに及ぶ大皿を製作する技術は、国内に数人しかいない希少な技術である。
ガラス研ま工	三田 隆三 株式会社 清水硝子	みた りゅうぞう	男	81	江戸切子一筋の職人で、二次元の図面上として提案されるデザインの意図を的確に汲み取り三次元のガラス形状に切子加工する技術精度に優れており、その技術を生かして製作した東京スカイツリーのエレベーターの内装や会計皿、オブジェ等は圧巻である。また、区の体験教室やインターン受入れ等に積極的に取り組み、伝統工芸の普及・後継者育成に尽力している。
とう製品製造工	尾崎 英幸 籐巧芸おざき	おざき ひでゆき	男	72	籐工芸の製作に長年従事し、全工程を一人で行うとともに市松編みや木目編み、カゴメ編みなど、多くの多岐にわたる優れた技能を有している。円形の脱衣籠を日本で唯一製作する職人であるとともに、日本古来の技術を生かしつつ新製品の製作にも積極的に取り組んでいる。また、区のイベント及び江戸たてもの園での実演や小学生の体験教室講師など、後進の育成にも尽力している。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
製本作業員	渡邊 博之 株式会社 博勝堂	わたなべ ひろゆき	男	58	製本加工に長年従事し、40種類以上の加工機械はもちろんのこと手作業による製本に対する幅広い知識と技能も有している。特に伝統的な和本関係の技能に卓越しており、両綿入り大和綴じ枕付製本や帙爪(ちつそう)付け製本の作成段階における改良を行ったほか、皇室に献上するアルバムの製本を他県からも請け負うなど、その技術力は随一である。また、外国人技能士輩出及び認定訓練校講師など後進指導・育成にも尽力している。
理容師	町田 典一 合資会社 町田パーバー	まちだ のりかず	男	60	理容施術のファッション化と信頼という消費者ニーズに対応する中で、染毛トラブル解消のため染毛製品の安全性を研究して論文にまとめ、染毛技術の確立に尽力した。その染毛技術を用いて毛髪に繊細な色を表現する技能は秀逸であり、全国理容競技大会で優勝している。また、アジア大会の審査委員及び全国大会出場者の講師など後進の指導・育成にも尽力している。
衣装着付師	金田 恵美子 ビューティサロン カナダ	かねだ えみこ	女	78	着付帯結びの優れた技術の伝達や指導をはじめ、成人式や七五三に関する幅広い技能を有している。美容師唯一の根津流の後継者であり、その伝統的知識・技能の上に、「迅速なお支度、着ていて苦しくない、美しい着物姿」という新たな着付作品を作り出している。また、30年以上続く講習会の実施や技能競技大会の審査員を務めるなど、後継者育成にも尽力している。
日本料理調理人	大河原 実 水月株式会社 水月ホテル 鷗外荘	おおかわらみのる	男	60	伝承料理としての日本料理を「陰陽五行説と五味五色五法」に則ったものとしてその真髄を理解し、現代にマッチした新メニューの開発に努めている。会席料理、宴会料理、懐石料理等のジャンルを問わないオールマイティな技能は抜群であり、中でもふぐの二枚引きにおける庖丁さばき及びその応用力は他の追随を許さない。また、技能検定委員や技能五輪出場者の講師を務めるなど後進育成にも貢献している。
西洋料理調理人	矢部 喜美夫 株式会社ホテル グランバシフィック	やべ きみお	男	62	長年西洋料理の調理に従事し古典料理を大切にしながらも、時代のニーズに合わせた糖尿病患者対応低カロリーメニューに代表される新しいメニュー開発や改善に尽力している。その高い技術力は、世界各国が一同に集まる宴席でも発揮され、ベジタリアン・アレルギー・グルテンフリー等を考慮する特別メニューの調理の指揮をとった。また、協会の技術講習会及び社内セミナー講師を務めるなど後進の育成にも尽力している。
中華料理調理人	鈴木 広明 民権企業株式会社 赤坂四川飯店	すずき ひろあき	男	50	中国四川料理の調理技能全般に通暁している。特に油脂の1つである老香油(ラオシヤンヨウ)の利用並びに応用の技能に長け、調味油の調合やこれを用いた料理の風味の高度化を実現し、業界並びに一般消費者への中国料理の普及発展に貢献した。その技術をもって国際料理コンテストでも銅賞を受賞している。また、中国料理地方試験委員や大学兼任講師を務めるなど後進の育成に尽力している。
ソムリエ	谷 宣英 株式会社ホテル ニュー・オータニ トウルダルジャン	たに のぶひで	男	42	ソムリエの専門知識・技能全般に卓越しており、特に正確な喇酒及びデキャンタージュ技術に秀で、全国大会での優勝とアジア・オセアニア大会での準優勝の成績を修めている。特に、澱のあるような年代物のワインのデキャンタージュではボトルを蝸燭で照らしながら上澄みのみを移す、熟達した技能を有している。また、全日本最優秀ソムリエコンクール出場者への指導や社内セミナーでの若手指導など、後進の指導・育成においても尽力している。
家具類内張工	鈴木 一彦 有限会社 鈴幸装備	すずき かずひこ	男	52	伝統ある技能を継承するとともに、新素材を取り入れて様々なものを張る可能性を追求しており、特に歴史のある椅子を修繕・修復する技能に優れている。パリに独自ブランドで出展した際には、本物を長く使い続けるという日本人の感性に合わせたデザインが好評を博し、日本の家具・椅子製作の匠の技を知らしめた。また、「タピシエ会」という若手の技能向上を目指した会を発足するなど後進の育成にも尽力している。
表具師	内田 幸三 株式会社 内田表具店	うちだ こうぞう	男	64	襖仕上げに卓越した技能を有しており、伝統的和紙の特性を十分に生かした今日の襖技法を確立した第一人者である。建物が長い年月をかけて醸し出す雰囲気表現するその仕上がりは、業界内外の衆望を集めている。屏風においても、細かい筋割り技術を用いた新作屏風の考案など高い技術に裏打ちされたオリジナル作品を制作している。また、認定訓練校の指導員や技能検定委員を務めるなど、後進の指導・育成にも尽力している。
金属塗装工	嶋村 博司 損害保険ジャパン 日本興亜株式会社	しまむら ひろし	男	65	自動車補修塗装技能において優れた技能を有しており、樹脂部品における修理補修技術を確立、損保業界及び自動車補修業界に産業廃棄物の抑制を目指した補修技術を周知した功績は大きい。また、アクリルラッカー塗料をはじめ、アクリルウレタン塗料、2Kウレタン塗料、水性塗料などの最新技術をいち早く取り入れた技術研修を実施し、技能士を多数輩出するなど後進の指導・育成にも貢献している。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
人形製造工	高久 秀芳 (秀芳) 自営	たかく ひでよし (しゅうほう)	男	82	桐塑(とうそ)の生地に塑粉を塗り重ねて立体的な目・鼻・口、顔の輪郭を作り、自作の玉眼を入れ筆で顔の表情を描く伝統的技法に優れ、多様な種類の人形頭を製作できる希少な職人である。区指定文化財である山車人形の頭部補修調査研修で講師となり、技術的な見地からの助言を行い文化財修復にも貢献した。また、区の伝統工芸記録映像や博物館での講師として積極的に協力しており、技能の伝承・普及及び後進の育成に尽力している。
和楽器組立工	河野 公昭 三絃司 きくおか	こうの きみあき	男	56	分業で製作する他地域と異なり、全工程(胴作りを除く)を一人で製作することを特徴とした東京三味線の職人である。特に、三味線の音色を決める皮質と皮張りの技術に強いこだわりを持ち、皮張機の改良や普及、人口皮革の開発など常に技術の向上に努めている。また、区の弟子入り支援事業、小中学校への製作体験・弾き方指導等に積極的に参加し、伝統技術の普及、継承にも多大な貢献をしている。
楽器修理工	萩森 弥郁夫 日本ダブルリード 株式会社	はぎもり みかお	男	56	オーボエ、バスーンの修理作業に長年従事し、日本で初めて専門化して国際的なレベルに引き上げ、国内外から修理を依頼される業界の第一人者である。欧米人向きと言われたこれらの楽器を手の小さな中学生や女性でも扱えるようメカニズムの位置や大きさに各メーカーへ変更させるとともに、部品名を統一化することで楽器業界の発展に貢献した。また、修理技術冊子の発行や各種イベントでの実演・講師など後進の育成にも尽力している。
せんす製作工	松井 宏 江戸扇子工房 「まつ井」	まつい ひろし	男	67	江戸扇子を40年以上守り続ける、希少な職人である。江戸扇子では京扇子と異なり、一人の職人が全作業を行うため、40にも及ぶ工程それぞれに熟達した技を有している。独創的な扇子製作にも定評があり、左右非対称形状の『グラデーション扇子』においては、外見だけでなく扇ぎ手の利便性も考慮した画期的な作品であり、各種雑誌等に取り上げられるなど江戸扇子を広く世に発信した。
貴金属細工 加工工	岡内 太郎 有限会社 岡内鋳飾	おかうち たろう	男	46	伝統的な鍛造や地金からの削りだしや叩き出しの制作方法に、近年のワックス削りだしによる制作方法を組み合わせた製法に加え、デザイン面でも伝統技術と新しい現代感覚を取り入れた「手作り加工」作品製作の第一人者として、高い評価を得ている。特に、ブローチ・ペンダントリングの製作に優れており、創作コンクールにおいて常に上位に入賞している。また、技能検定委員及び技能グランプリ審査員など後進の指導にも尽力している。
貴金属細工 加工工	佐藤 剣二 佐藤宝飾	さとう けんじ	男	36	鍛造、彫金、ロストワックス加工など通常は分業となる多数の貴金属加工技術をすべて高い技能レベルで有しており、デザインから仕上げまで全ての工程を一人で行える数少ない職人である。これらの洗練された伝統的技術を基に、キャスト鋳造やレーザー溶接などの最新技術を融合し、特殊素材の加工を従来にはない高品質で行ってきた。また、各種イベントでの実演及び技能検定対策の講師など、後進の育成にも尽力している。
貴金属細工 加工工	増田 泉 株式会社 ミキモト装身具	ますだ いずみ	男	56	大正時代に確立したミキモトスタイルと呼ばれる彫刻石定技法を現代に受け継ぐ第一人者である。その多種多様な宝石学的、実践的知識を基に製作される、ソリテールと呼ばれるダイヤモンドリングの石定技術は、バランスのとり方・爪の形状・正確さなどで他の追随を許さない。また、パリ万国博覧会に出品した「矢車」の復刻に貢献し技術力の高さを示した。加えて、母校での講師及び取引先での技術指導など後進育成にも尽力している。
宝石細工 加工工	加藤 光男 ニューコーガイ 株式会社	かとう みつお	男	63	貴金属宝飾品の製作において量産品や特注品の製作に携わっており、平面図面を立体的に表現する高い想像力と、宝石の輝きを最大限に高める手先の技術は他に類を見ない。特に、代表作であるダイヤモンド167カラット、1867ピースを敷き詰めた2億円のプラチナ製ビジュアールバックにおける石留め技術は、氏の手先の器用さを象徴するものであり宝飾業界において高い評価を得ている。
印章彫刻工	上田 雅典 (観笑) 有限会社 上田印房	うえだ まさのり (かんしょう)	男	51	木口彫刻、篆刻(てんこく)等の幅広い正統派の技能を有しており、中でもゴム印彫刻に秀でている。書は、江戸勘亭流師範として彫刻に適した重厚で切れのある文字を生み出している。最近では、機械も使用し手書き文字をデータ化することで技能の継承に努めている。一方で、パソコンの登場で印章文化の伝承が行われなくなることを危惧しており、各種イベントでの実演や小学校での石印教室など後進の育成にも尽力している。
彫金工	佐々木 正子 ジュエリー 佐々木	ささき まさこ	女	69	彫金工として長年従事し、彫金技法の中でも特に難易度の高い緋銅(ひどう)、ロウ付けに優れた業界の第一人者である。特に、作品の色を決める緋銅においては立体緋銅及び曲面緋銅という技能を有し、他の追随を許さない。加えて、これらの「伝統彫金技能」と「西洋彫金技能」を融合させた美術工芸界の新ジャンル「彫金ジュエリー」を生み出し業界の発展に大きく貢献した。また、中学生の受入や大学での講演など後進の育成にも尽力している。